



特集

目指すは「世界の北海道」

～第8期北海道総合開発計画始動～



「世界水準の価値創造空間」の形成を目指す

ココがポイント!



●北海道総合開発計画は、北海道の資源・特性を生かして、地域の発展とわが国の課題解決に貢献するため、国が策定する計画。

●第8期北海道総合開発計画では、「世界の北海道」をキャッチフレーズに、「食」と「観光」を戦略的産業として位置付け、「生産空間」を支え、「世界水準の価値創造空間」の形成を目指していくことを2050年の長期を見据えた計画のビジョンがうかがえる。

北海道開発の歴史

北海道開発の歴史は明治2年(1869年)の開拓使の設置に始まり、およそ150年間にわたって途切れることなく、国の重要施策の一つとして進められてきました。昭和25年(1950年)に北海道開発法が制定されて以降、昭和26年(1951年)策定の第1期北海道総合開発計画から平成20年策定の第7期計画に至るまで、国民経済の復興や人口問題の解決、産業構造の高度化、エネルギーや食料の供

給など、時代の変遷により計画の主眼は変化してきましたが、一貫して、その時々わが国が直面する課題の解決に寄与することを目的とし、計画的に開発を推進してきました。

150年弱の北海道開発の結果、明治2年には約5万8千人であった北海道の人口は昭和33年(1958年)には500万人超に達し、名目道内総生産は20兆円弱にまで成長しました。今日の北海道は、フィンランドやアイルランドなど、欧州の一国にも匹敵する規模の地域経済社会を形成するに至っており、北海道固有の資源・特性を生かしながら、わが国全体の安定と発展に大きく貢献しています。

第8期目となる「北海道総合開発計画」を平成28年3月に策定

北海道の魅力は?と聞かれたら、何を想像するでしょうか。雄大な自然、豊富な水産資源、広大な農地、冷涼な気候、パウダースノーで滑るスキー...など、いくつかが挙げられると思いますが、今、北海道が強みとして特にアピールするもの、それは「食」と「観光」です。

食料自給率(カロリーベース)約200%を誇

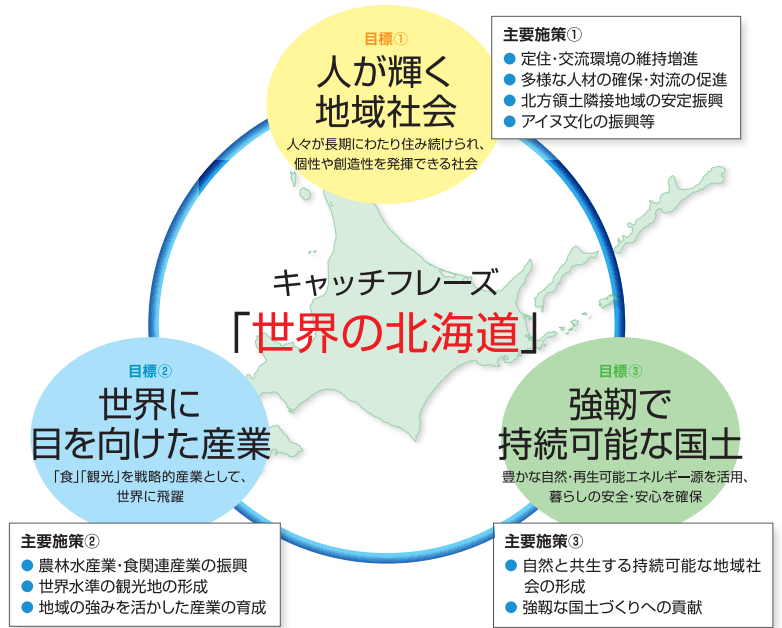
るわが国最大の食料供給基地である北海道の食品輸出額は年々増加しており、平成20年の262億円に対し平成27年は773億円^{※1}と約3倍に増加しています。また、海外からの観光客が急増しており、平成22年に79万人であった来道外国人旅行者数は平成28年にはその約3倍にあたる223万人^{※2}に増加しています。

魅力ある豊富な地域資源とブランド力により国内外の人々を引きつけている北海道。このまま右肩上がりに順風満帆!といきたいところですが、その一方で、急速に進展する人口減少・高齢化という課題に直面しています。近年、人口減少や高齢化は全国共通の深刻な課題となつていますが、北海道は全国よりも10年程度先行して人口減少が進行しており、そのスピードは今後一層加速していくと予想されています。本州などとは距離感の異なる広域分散型社会を形成している北海道にとってその影響は大きく、このまま人口減少が進んだ場合、特に広大な農地や豊富な水産・森林資源などを有する地方部において、食や自然環境などを生

※1 出典 北海道調べ
※2 出典 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

目指すは「世界の北海道」 ～第8期北海道総合開発計画始動～

新たな計画の概要

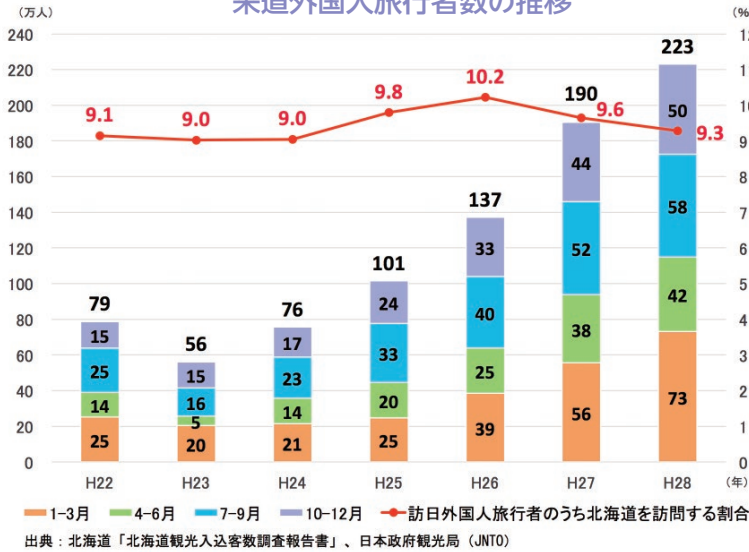


第8期計画の主な取り組み

◆「世界水準」の観光地の形成に向けて

北海道を訪れる外国人旅行者は、平成28年に200万人を超え、日本を訪れる外国人旅行者数の約1割を占めています。その旅行者の国別・地域別割合を見ると、アジア圏からの旅行者が全体の約9割を占めています。中国および台湾からの旅行者がそれぞれ約54万人と全体の約半数を占めており、次いで韓国、香港、タイの順となっています。宿泊先は、約7割が札幌市や小樽市、登別市などを含む道央圏に集

来道外国人旅行者数の推移



中しており、今後は道央圏以外の地域において、いかに外国人旅行者を呼び込んでいくかが課題となっています。また、北海道内の月別外国人宿泊者数を見ると、緑豊かで冷涼な夏にピークを迎える地域、反対に、スキーシーズンである冬の数カ月間のみ集中する地域など、地域ごとに季節による変動が非常に大きいといった特徴が見られます。さらに、外国人旅行者数が増加している一方で、日本人旅行者数は、平成11年度をピークにほぼ横ばいという現状にあり、時代のニーズに応じた付加価値をいかに創出していくかが課題となっています。こうした状況を踏まえ、第8期計画では、来

世界水準の観光地とは

そこできしか得られない「特別な体験」が地域にあることに気付き、それを観光資源として生かしてビジネスへと高め、地域が一体となって支えている地域。

- 【旅行者】**
1. 世界から憧れられる。
 2. 多くの（相応の）観光客が訪れ、お金を使う。
 3. 訪れた観光客が満足し、また訪れたいと思う。

- 【観光に関係する者】**
4. 商品・サービスが揃い、ビジネスとして成立している。

- 【観光に直接的に関係しない者】**
5. 地元住民が観光の重要性を理解している。

北海道できしか得られない「特別な体験」(例)



6. 地域における運営体制が確立している。

道観光客の玄関口となる新千歳を始めとする空港や大型クルーズ船を受け入れる港の環境整備・改善など、ゲートウェイ機能を強化していくほか、観光地への交通アクセスの改善を図るため高速交通体系の整備、雄大な景観を楽しむドライブ観光やサイクルツーリズムの推進など、北海道が「世界水準」の観光地として認知され、人々を引きつける地域となるよう、さまざまな取り組みを戦略的に展開していきます。

水田の大区画化・汎用化



【整備前】小区画、不整形、排水不良



【整備後】大区画化、排水改良

【新たな営農の展開】



水田の排水改良により
キャベツの作付け可

【新技術の導入】

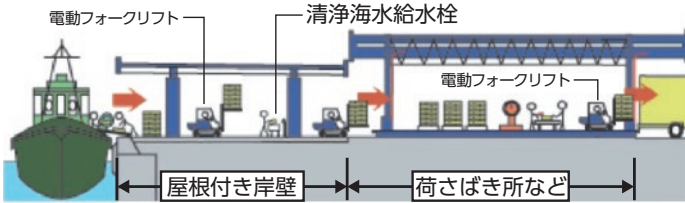


GPS付き無人トラクター

◆「食」の総合拠点づくりを目指して

北海道の農業には、開拓の歴史が生んだ高いポテンシャルがあります。大規模で専業農家主体のダイナミックな農業経営、豊富な地域資源などは、北海道ならではの柔軟性や耐力を生み、新たな価値の創造力につながります。

水産物の高度衛生管理



屋根付き岸壁



清浄海水導入施設

就農者の高齢化や担い手不足が深刻化する中、北海道が持つ食料生産の高いポテンシャルを生かすためには、新技術の活用や経営形態の革新などを積極的に進めることが重要です。このため、GPS自動走行システムの導入による自動運転トラクターなど、ICT（情報通

信技術）やロボット技術を活用したスマート農業を促進していきます。また、農地の大区画化・汎用化（水田に野菜などの作付けを可能とすること）などの基盤整備を進め、担い手への農地集積による生産コストの低減や高収益作物の作付け拡大などにより、農業収益力の向上を推進していきます。さらに、災害リスクの高まりに対応するため、農業水利施設などの耐震化や洪水被害防止などの対策を推進していきます。

北海道の食のセールスポイントは、農業だけではありません。水産業においても全国水揚げ量の3割[※]を占める重要な拠点です。

食料品等輸出額の約9割[※]を占める水産物・水産加工品は、高鮮度で安全かつ安定的に供給することを期待されていますが、近年、特に日本海海域においてホッケやスケトウダラなどの回遊性資源が減少傾向にあります。このため、安定した生産・出荷が可能な養殖・栽培漁業の普及を促進していくとともに、水産資源の回復および管理を図るため、漁獲可能量制度などによる公的な資源管理の取り組みを推進していきます。また、高鮮度で安全な水産物の安定供給を図るため、屋根付き岸壁などの施設整備と併せた高度衛生管理対策や漁港施設の地震・津波対策、長寿命化対策などを推進していきます。

これらの取り組みに加えて、「食」の高付加価値化・競争力強化を図るため、農林水産物や食品の安全性向上・ブランド化、産業間での連携や新たな価値の創造など、生産・加工・流通

COLUMN

外国人観光客に、
魅力あふれる北海道の
ドライブルートガイド&サポート!

北海道を訪れる外国人観光客は主に道央地域を訪れていますが、せっかく北海道に来たのだから、道央以外の地域の雄大な自然の風景や温泉、その土地ならではの味覚を体験してもらいたいものです。

そこで外国人観光客に、レンタカーを利用して道内各地に足を伸ばしてもらおうと、「北海道ドライブ観光パス社会実験」を行っています。

平成28年度は対象を「ひがし北海道」地域に限定し、10月1日から11月30日までの2カ月間、レンタカーを借りる外国人観光客に124施設の特典付き観光パス(クーポンブック)を配付することで、観光客を「ひがし北海道」へ誘導する取り組みを行いました。レンタカー店舗などで約2000冊の観光パスを配布したところ、29施設で60冊113枚のクーポンが利用され、アンケート回答者の約3割から旅行先の選定で影響があったとの回答がありました。

本年度は、9月1日から11月30日までの3カ月間、特典提供施設を北海道全地域(札幌市を除く)に拡大し、スマートフォンアプリ「Drive Hokkaido!」(株式会社ナビタイムジャパン提供)を活用して、特典提供施設の情報発信、観光ガイドや景色の良いドライブルート案内を行います。



Aoi Ike (Blue Pond)
青い池

This is a blue pond resulting from a construction project in undertaken in order to protect against a volcano disaster at Mt. Tokachi. It is said that the color of the pond looks different depending on the occasion; the cause of this is still not clear. Trees such as Japanese larches that have withered away within the pond creates a hugely fantastical image that many tourists have come to see in recent years. Around June is when the young green leaves in the pond periphery, the blue pond shining a cobalt blue color, and the background of the Tokachi mountain ranges with lingering snow, all come together to create and even more fantastical sight.

RELATED SPOT



Blue Pond (Aoi ike)

アプリ「Drive Hokkaido!」
の画面の一部

アプリはすでに公開済み。外国人のお友達が北海道旅行を計画していたら、ぜひ教えてあげてください。
ホームページ <https://hokkaido.japandrive.com>



の各段階で主体的な取り組みを促進し、「稼ぐ力」を磨いていく必要があります。食に関わる幅広い産業と関連機関(学官民金)がオール北海道で今まで以上に緊密に連携・協働できる体制を整備し、6次産業化などにつなげていくことで、北海道ならではの食の総合拠点づくりに向けた取り組みを進めていきます。

※5 出典 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」
※6 出典 函館税関「北海道貿易概況」

◆北海道の食と観光を支える
「生産空間」の持続的発展に向けて

本格的な人口減少時代にあつては、「人こそが資源です。地域が持続的に発展していくためには、そこに関係する人々が、その個性を最大限発揮し、新たな「価値」の創造が活発に行われる地域社会を形成していかなければなりません。多様な人々を引きつけ、活力ある地域社会を維持していくためには、地域内外の交流・

協働を促進し、人口減を地域の課題解決・活性化に携わる活動人口の増加でカバーするとともに、地域づくりを担う人材を発掘・育成し、未来に向けて地域が動き出すきっかけを醸成していくことが重要です。
今後は、人的資源の開発に着目し、人々の集積の薄さをコミュニケーションの密度でカバーしながら、「価値創造力」を強化していく取り組みを推進していきます。